



シテ・レトル

LETTRÉ

2025.3 Vol.91

リーダーズ・インタビュー

大阪商工会議所 会頭

鳥井 信吾 氏

もうすぐ開幕! 大阪・関西万博

企業の挑戦を「やってみなはれ!」でサポート



広報委員会

第18回 CITÉまちづくりシンポジウム
トークセッション

研究活動委員会

圏域研究会／プロジェクト見学会
さろんトーク

分科会活動委員会

次代のまちづくり研究会
ソトから見た大阪研究会

総務委員会

幹事研修会／親睦ゴルフコンペ
国内視察研修会／新入会企業のご紹介

提供: (公社) 大阪パビリオン
協力: (公社) 2025年日本国際博覧会協会

今の仕事観につながる 先達の重みある言葉

○**桐山**：鳥井会頭の経歴や、これまでの経験で印象に残っているエピソードなどを伺えますでしょうか。

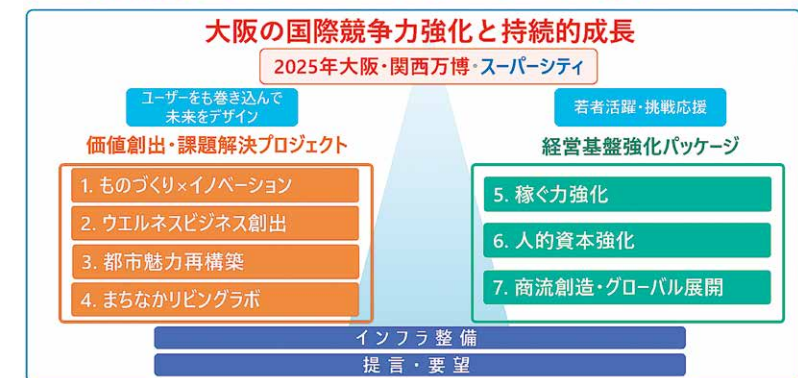
○**鳥井**：神戸の甲南大学、米・南カリフォルニア大学大学院を修了、専攻は微生物遺伝学でした。商社勤務を経て1983年にサントリーに入社しました。入社後は京都ビール工場を皮切りに、祖業のウイスキーづくりにも携わり、2002年からは三代目のマスターブレンダーとしてウイスキーの品質向上の仕事をしてきました。サントリーは「やってみなはれ!」のチャレンジ精神で知られる会社。職場には自由闊達な雰囲気があふれ、私も数多くの先達から影響を受けてきました。伝説の“ビール職人”がつぶやいた「ビールは文化である」という重みのあるひと言。ウイスキーの貯蔵庫で眠るひと樽の原酒をテイastingしたときの、足の震えが止まらないほどの感動を教えてくれたチーフブレンダーの話。そうした言葉の一点一滴が今の私の仕事観につながっていると感じます。彼らがなぜ私に聞かせようと思ってくれたのかは分かりませんが、「次代に伝えよう、つなげよう」というその思いが、今思い返しても、何よりうれしかったですね。

企業間ネットワーク構築し 大阪経済を底上げ

○**安東**：大商では万博開催前後の期間を含む大阪の成長戦略を提示するプランを策定しております。このプランにおいて、大阪の課題やその解消への取り組みについてはどのようにお考えでしょうか。

○**鳥井**：2023年1月に大商の中期計画「挑戦都市 やってみなはれ! 大阪プラン」を策定しました。大企業が集中する東京に比べ、大阪は中小企業が多いまち。「東京か、東京以外か」で所得格差が生じているような現状を変えるためには、大阪が誇る中小ものづくり企業によるイノベーションが不可欠だと考えています。大阪には売上高1000億円以上の企業もあれば社員数20人以下のスタートアップ企業までその規模はさまざま。高い世界シェアを誇る企業もたくさんあります。それらの企業経営者の多くは優秀で、実際に会ってお話を聞くと非常に面白い。共通しているのは「イノベーション」「人材育成」「夢を語れるビジョン」3本の軸をしっかり定め、トップが率先してけん引している

挑戦都市 やってみなはれ! 大阪プラン



こと。そのバイタリティーを見ていると成長するのうなずけます。

そうした世界シェアを誇るような企業の視線は、大阪や日本という枠を飛び越えて世界に向いています。大阪経済底上げのためには同業種・異業種、異分野間の連携を誘発するネットワークづくりが必要だと考えています。

○**桐山**：企業同士のマッチング、ネットワークづくりは商工会議所の強みが生きる部分ですね。

○**鳥井**：商工会議所はあくまでも非営利。マッチング後のフォローまで携われることも強みだと思います。

大商では大阪市内の5支部で、経営指導員が中小企業の経営計画や資金繰り、人材育成、販路開拓などの伴走支援に取り組んでいます。ビジネスマッチングは中期計画を踏まえて、今後の必要性は増していきます。会員数約3万件の総合力、スケールメリットを存分に生かしていきたいと考えています。しかし、単に集まったら良いというものではありません。

“ウエルネス”と“ASEAN”で 国際競争力を高める

○**桐山**：中期計画の取り組みの中で、万博を契機に国際競争力を高めて世界をリードする分野を確立されるとお聞きしています。具体的にはどのような分野に注目をして進めていこうと考えておられますか。

○**鳥井**：大阪にはあらゆる分野の産業が均等にあることが強みです。

まずは「ものづくり」企業の発展です。なぜなら日本の強みは第一に勤勉、第二にチームワーク、第三に手先が器用。「最近の、若い日本人は変わってしまった」と言われますが、そんなことはない、私は彼らに希望を持っています。

そしてウエルネスビジネスとASEANビジネスです。

ウエルネスでは、オーストラリアのアクセラレータ※1と連携し、メドテック※2分野のスタートアップをグローバルネットワークで育成し、投資する

もうすぐ開幕! 大阪・関西万博 企業の挑戦を「やってみなはれ!」でサポート

4月13日から10月13日までの184日間、夢洲を会場に開催される大阪・関西万博。国内の景気浮揚や、世界各国に対する日本のプレゼンス向上のきっかけとして、その成功に期待が高まります。万博を契機に大阪のさらなる国際競争力強化と持続的成長を目指す大阪商工会議所(以下、大商)の鳥井信吾会頭に、期間中の取り組みや閉幕後の成長戦略を伺いました。

鳥井 信吾氏 大阪商工会議所 会頭

Mr. Shingo Torii

生年月日 1953年1月18日

1979年 6月 南カリフォルニア大学大学院修了 修士(M.S.)〔微生物遺伝学〕

1983年 6月 サントリー株式会社 入社

1999年 3月 常務取締役、ロジスティクスセンター長

2001年 3月 代表取締役専務取締役、SCM本部長

2002年 3月 代表取締役専務取締役、生産研究部門担当 マスターブレンダー

2003年 3月 代表取締役副社長

2009年 2月 サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長

2014年 5月 ビームサントリー社 取締役

2014年 7月 大阪商工会議所 副会頭

2014年 10月 サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副会長

2022年 3月 大阪商工会議所 会頭



※1:スタートアップや起業家を支援する人材や団体

※2:MedTech。医療(Medical)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語で、医療分野に先端技術を導入する取り組み



大阪ヘルスケアパビリオンのイメージ画像

仕組みをスタートさせました。国内外の育成プログラムから選ばれた優秀なスタートアップが世界中の投資家にプレゼンテーションする機会を万博に合わせて大阪で開催する予定です。もう一つの取り組みはASEAN(東南アジア諸国連合)との連携強化です。大阪の企業が多く進出しており、経済的な結びつきが強いASEAN主要6カ国(タイ、ベトナム、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン)の現地商工会議所と共同で2023年に「日本アセアン促進プラットフォーム」を立ち上げました。また、中小企業のグローバル展開にとって要となる「多様性のある人材の育成」「起業家同士のネットワークづくり」のため、人材交流事業です。昨年、6泊で6カ国を回り、各国の商工会議所代表者に万博をアピールしてきました。万博開

幕後は大阪に招待し、さらなる連携強化につなげたいと考えています。

「リボーンチャレンジをイノベーションの導火線に」

○安東：万博開催中、会場内ではどのような展開を計画しておられますか。

○鳥井：大阪の産官学が一体となって出展する大阪ヘルスケアパビリオン内の「リボーンチャレンジ」ゾーンを(公財)大阪産業局とともに企画・運営しています。このゾーンでは、優れた大阪の中小企業・町工場・スタートアップを発掘・支援し、夢のある技術革新、イノベーションの成果を、1週間ごとに展示企業を入れ替え、26週間でのべ400社以上が出展する予定です。

例えば、磁力で靴を浮かす「空中に浮く靴」や、服の生地に植物をまとうせて環境保護とデザインを両立させた「光合成する服」など、出展内容はいずれも意欲的なものばかりです。チャレンジングな提案なのですぐにビジネスに直結するものではないかもしれませんが、学びの場、チャレンジの場として参加企業の経営者も技術者も面白いと言ってくれています。こうしたイベントへの出展は、中小企業者同士でも考えていることや手法が全く違うことを知るきっかけになります。万博に出展して終わり、ではなく、終わってからが勝負。チャレンジによってイノベーションを起こす導火線になることを期待しています。

○安東：大阪だけで400社以上もの企業が手を挙げていることに驚きました。



○鳥井：経営者の自由度が高く、チャレンジ精神も旺盛といった中小企業ならではの機動力が生きる部分なのかもしれません。こうした機運を逃さず、後押ししていく仕組み——リボーンチャレンジの「次の」チャレンジ、ポスト万博の後押しをしていくイノベティブなエコシス

テムが構築できれば将来の発展につながっていくと考えています。

大人の社交場「スナック」を世界中の人々が交流できる場に

○桐山：万博の期間中、大阪の都心部で魅力発信やビジネス交流を推進されるとも聞いています。具体的にどのような取り組みをされる予定でしょうか。



○鳥井：万博の会場は夢洲ですが、大阪のまち全体を万博会場と捉え、来場者に都市の魅力を発信する「まちごと万博」を2024年4月から展開しています。大商、大阪府・市、関西経済連合会、関西経済同友会による「大阪まちごと万博共創プラットフォーム」が、万博をきっかけに生まれる面白いイベントやプロジェクト、魅力的な人を「まちのパビリオン」と見立てて一体的に情報発信しています。構想中のプロジェクトの一例としては、万博の営業時間外も楽しめる「夜のパビリオン」として、大人の社交場「スナック横丁」を検討中です。万博開催中は運営スタッフだけで5000～6000人も人が世界中から集まりますが、そういった人たちの公的な交流の場はありません。せっかく大阪に来ているので、朝から晩まで会場に詰めて、ホテルとの往復だけの毎日ではなく、交流を楽しんでほしいですね。大阪のホスピタリティを最大限に生かせるスナックで、例えばガーナのアーティストとニューヨークのスタートアップ企業経営者と日本の大学生が交流する——こんな経験は万博だからこそできること。単にインバウンドの観光客が会場で楽しむだけではなく、経験がレガシーとして残ることに期待できます。

誰もが知っている“万博”閉幕してからが正念場

○安東：万博で国内外のネットワークや知見な



大阪まちごと万博共創プラットフォームのホームページ

どをさまざま得られると思います。それらを基に、万博終了後、大商はどのような役割を担っていくのでしょうか。

○鳥井：一つ考えられるのは、企業や団体のイノベティブなネットワークづくりですね。国内外問わず、何の脈絡もなく「大阪に集まって」と呼び掛けてもなかなか反応をしてもらえません。その点、「万博」は誰でも知っているキラーコンテンツ。万博をきっかけに「ぜひ大阪に」と声を掛ければ、少なくとも世界は「わかりました、検討します」とは言ってもらえます。大阪のまちづくり、多様性、ロケーション——という切り口であっても「万博をきっかけに始めました」とすれば、企業にとってもいいきっかけになるんです。行政や企業、他の経済団体の中でも、商工会議所は利害関係抜きにできることが真骨頂だと思っています。

○桐山：確かに大商に取り持っていただけると、本当にとつきやすいというか、入りやすいと感じます。

○鳥井：従来からのそうした取り組みに“万博”が加われば鬼に金棒。1～2年どころか10年ぐらいはポスト万博として最大限活用できる。もちろん万博自体の成功を願っていますが、むしろ閉幕する10月以降が正念場。期待も大きくなっています。

「まちそだて」を引っ張るリーダーシップに期待

○桐山：最後に、CITÉさろん活動への期待や助言など伺えますでしょうか。

○鳥井：多様な業種・業態の企業が数多く参画

され、30余年に渡りワークショップなどの活動を自発的に運営されているCITÉさろん活動は素晴らしい共創の場だと思います。

大阪のまちづくりにおいては、万博に向けて御堂筋やうめきた、中之島、なんば広場と魅力的に整備が進んできました。今後はこうした空間を効果的に活用する「まちそだて」という視点が重要になります。大商では2024年10月に「官民共創の『PARKな大阪都心』提言」を後押ししています。CITÉさろんのみなさんにはまちづくりにおける一層のリーダーシップを発揮されることを期待しています。

○桐山・安東：会頭のご期待に応えられるよう、「リーダーシップ」を忘れず、活動にまい進していきたいと思います。本日はありがとうございました。



インタビューー CITÉさろん広報委員会委員
桐山 朋子 氏
南海電気鉄道株式会社 執行役員
まちづくりグループまち共創本部長
CITÉさろん WSメンバー
安東 政晃 氏
株式会社大林組
大阪本店建築事業部
プロジェクト推進第三部副課長
取材日 2025年1月14日(火)14:30～16:30

第18回 CITÉまちづくりシンポジウム

「郊外と都心の関係性」のこれからを考える ～三大都市圏随一の「幸福生活圏」実現を目指す「関西未来シナリオ」～



上田副会長より開会挨拶と趣旨説明

CITÉさろん「圏域研究会」ではこの4年間、コロナを経て、郊外と都心の関係性の変化について研究してきました。本シンポジウムでは、公共政策・科学哲学のジャンル横断で幸福論を長年研究されてきた広井良典先生から特別ビデオメッセージを頂戴した後、人口減少社会の国土計画のあり方について長年、研究を進めてこられた瀬田史彦先生に基調講演いただきました。圏域研究会から研究成果を報告し、三大都市圏随一の「幸福生活圏」実現を目指す関西「シナリオ」について話題提供した後、その具体的実現方をパネルディスカッションで議論しました。

特別ビデオメッセージ

人口減少・成熟社会のデザイン ～「幸福生活圏」関西への展望～

講師：京都大学人と社会の未来研究院 教授 広井 良典氏
(国土審議会 計画部会・推進部会委員)

人口減少時代の幸福なコミュニティ



人口減少社会は私たちに多くの難題を突きつけているが、ターニングポイントでは新たな発想が必要。2010年頃から提唱されてきた「幸福の経済学」では、豊かさをGDP以外で測ろうとしており、まちづくりや国土との関係ではコミュニティが重要な要素になる。都市型コミュニティでは、集団を超えて繋がり合うような関係性が幸福にとって重要。

1975年のヒット曲「木綿のハンカチーフ」の背景には東京一極集中がある。一方、ここ10年くらいの学生を見ていると海外留学をした学生が、日本の地域の中にこそ課題と可能性があると気づき、グローバル化の先にあるローカル志向を持つことが増えた。若い世代への支援が重要だ。

AI活用によるシミュレーション研究と未来シナリオ

京都大学人と社会の未来研究院は、2050年に向けて日本は持続可能か?について日立京大ラボとAIを活用した共同研究を実施し、2017年9月に公表した。

2050年の日本を視野に、①人口、②財政・社会保障、③地域、④環境・資源の4つの持続可能性に注目し、150程の要因でシミュレーションを行った。東京一極集中シナリオでは財政は持ち直すが人口減少が加速し幸福度は低い。地方分散シナリオでは人口が分散し出生率が持ち直し、健康寿命は伸びるが交付金は増大。コロナ後の改めでのシミュレーションでは、女性活躍や働き方・生き方の多様性を含めたより包括的な分散型社会が日本社会のパフォーマンスを高めるという結果となった。

「幸福生活圏」関西への展望

昭和は一つのゴールを目指して道を登り、平成から人口減少、令和は山頂に出れば視野は360度に関ける、そういう時代だ。

一つのモデルとしてのヨーロッパの都市があり、人口10万人都市で

は歩いて楽しめるまちが維持されている。ウォーカブル・シティのようにコミュニティ空間を重視したウェルビーイングな都市・地域づくりが今後の基本的な課題だ。国土デザインも、一極集中から多極集中のまちづくり・都市づくりが地域の豊かさやウェルビーイングにプラスに貢献していくだろう。

日本はもともと分散的で地域の多様性が豊かな社会だったはず。特に関西は分散的、多極的な性格を持っている。豊かさの意味を新たな視点で捉え直し、若い世代への支援を重視しながら、幸福生活圏のモデルを関西から発信していくことが今求められているのではないか。

基調講演

幸福な関西を実現する 地域の多様性と圏域での役割分担

講師：東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授 瀬田 史彦氏
(国土審議会 計画部会・推進部会委員)

「人口減少を克服する」とはどういうことか?



自身は東京生まれ東京育ちだが、2005年から2012年まで現・大阪公立大学に在籍。その時、歩行者中心のまちづくり等、当時、大阪で進めていた成果が今まさに出ていていると感じる。先ほど広井先生がお話された人口減少は、関西に限らず日本全国どこでも外せないテーマで、我々がイメージする都心、郊外、農山漁村の考え方を

変えていかなければならない。

戦後の都市政策、都市計画は人口増加を前提としてきた。法改正はあるものの基本的には1968年の都市計画法がベース。今後は人口が減ることを前提に考えないといけない。世界的にみると、関西大都市圏は世界で最初に人口が減少するメガシティ。人口減少の「緩和」も重要だが、どう頑張っても減るため「適応」が必要。

人口減少に適応し、幸福な生活圏を形成するために何をすべきなのか?

「適応」するとは、より少ない人口で持続可能なシステムを再構築すること。事例をみると①人がいなくても成り立つシステムを構築する、②人口と地域の考え方・あり方を変えるに整理される。

国土交通省「地域管理構想」もその一つで、公共サービスのデジタ

2025年2月5日(水) 15:00～18:00 ホテル阪急インターナショナル 4階「紫苑」

プログラム

■開会挨拶&趣旨説明 (15:00) / CITÉさろん副会長【研究活動委員会担当】上田 徹 氏

■特別ビデオメッセージ (15:05～15:35)
人口減少・成熟社会のデザイン ～「幸福生活圏」関西への展望～

講師：京都大学 人と社会の未来研究院 教授 広井 良典 氏 (国土審議会 計画部会・推進部会委員)

■基調講演 (15:35～16:05)

幸福な関西を実現する地域の多様性と圏域での役割分担

講師：東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授 瀬田 史彦 氏 (国土審議会 計画部会・推進部会委員)

■CITÉさろん圏域研究会「研究成果報告」 (16:05～16:35)

幸福生活圏・関西の実現に向けたシナリオ ～都心・郊外・いなか、広域で相互に交流し支え合う幸福生活圏の構築～

報告者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 研究開発2部(大阪) 地域政策研究グループ 主任研究員 沼田 壮人 氏

■パネルディスカッション (16:45～18:00)

パネリスト：大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻 助教 青木 嵩 氏
東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授 瀬田 史彦 氏
国土交通省 近畿地方整備局 副局長 兼 近畿圏広域地方計画推進室長 出口 陽一 氏
大阪市計画調整局長 山田 裕文 氏
西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部 部長 谷 貴文 氏

モデレーター：株式会社タン計画研究所 代表取締役 宮尾 展子 氏

■閉会挨拶 CITÉ さろん副会長【広報委員会担当】高宮 紀子 氏



ル化も同じ。デジタル化で効率化もするが、本当に必要なものはしっかり守りリアルでも管理やサービスを行うことになる。常住人口から最近交流人口・関係人口へと概念が広がっている。コンパクトシティも非常に重要だが、50年、100年かかり即効性は低い。

地域生活圏のシミュレーション



そこで、本日の全体テーマでもある幸福生活圏、生活圏がテーマとなる。市町村の人口規模別に施設立地率を人口の大小で見たグラフを提示した。高度なサービスを提供する場合、一定の人口規模が必要で、今後はより大きな圏域で地域サービスを考えることが必要になる。国土計画における望ましい生活圏はどれくらいが適切なのかを検討した。

人口30万人以上の都市中心部に居住地から30分以内に到達できるかを2040年でシミュレーションした。関西はいいが、東北や山陰では30分圏内で移動できる人は少ない。

そこで、人口10万人でならどうなるかもシミュレーションしてみた。日本全国に赤いエリア、すなわち30分以内に最寄りの市の中心に到達できるエリアが増えた。さらに60分圏内を足すと全国人口の99%に

なる。人口30万人都市圏の場合はカバーできるのが全国の90%～80%。

こういったシミュレーションを踏まえて、今後、どう圏域をつくっていくか。市町村合併は50年目途で進められているようで次は2055年頃だろう。となると、合併せずに圏域をつくる、すなわち事務の共同化や広域連携を進めていくことになり、新しい圏域の考え方が必要になっている。

幸福な関西を実現する地域の多様性と圏域での役割分担

人口増加局面では、全国共通して下水・上水の整備を進めてきた。これから先は、それぞれの地域に異なる個性と異なる問題がある中で、何をやるかはそれぞれの圏域で決めていくことになる。人口減少下では一つの都市ではできないことが多くなるため、連携が非常に重要。人々が目指すライフスタイルも多様化している。これは、上田篤先生の「住宅すごろく」の絵だが、高度成長期は皆、同じような上がりを目指していた。しかし、人々が求めるライフスタイルは多様であり多様な都市圏を目指していくというのが重要。

私の専門の国土計画都市計画の話で締めくくらせていただくと、昔はピラミッド型、ヒエラルキー型で、同じことをやっていこうという計画があり一定のインフラ整備や公共施設整備には成功してきた。これからはネットワーク型、重層型になる可能性が大きい。



CITÉさろん圏域研究会「研究成果報告」

幸福生活圏・関西の実現に向けたシナリオ

～都心・郊外・いなか、広域で相互に交流し
支え合う幸福生活圏の構築～



報告者：沼田 壮人氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
政策研究事業本部 研究開発2部（大阪）
地域政策研究グループ主任研究員

【分析・提言】圏域とは何か？

圏域研究会の活動を踏まえて今後、どうしていくかを考えてきた。コロナ禍での変化として就業者の一部の都心集中と郊外拡散があったが、これはコロナ前から進んでいた変化でもある。コロナ後、テレワークが定着し鉄道旅客は大幅に減少し、田舎暮らしを志向する移住相談者は増加した。都市圏で個人の行動範囲が拡大すると都市圏の範囲が変わり、1stプレイス、2ndプレイス、3rdプレイスと都市圏の中身が変わり、幅のある多様な関係性へと関係性が変わる。その上で、都市はどのようなのか、幸せな圏域とはどういうものか？

現状、関西は課題だらけで、三大都市圏では人口減少が一番早く進み、国内総生産におけるシェアは減少し横ばいを続け、関西の中では大阪への一極集中が起こっている。専門的・技術的職業従事者の東京への流出は深刻だ。課題は満載だが、ポストコロナにおける関西圏のコンセプトとして「幸福生活圏・関西」を提案したい。人口減少は全国的課題であり東アジア先進国共通の課題で、GDPのみを指標とする経済成長モデルの限界を、関西が突破口を開いて「幸福生活圏・関西」の実現を目指すことを提案したい。幸福やウェルビーイング(Well-Being)とは、個人から、このまち・この世界を良くしたいとだんだん広く深くなっていく。京都大学の内田先生が提案された「協調的幸福尺度」のように、日本人にあった尺度で関西のポテンシャルが活きる幸福の在り方を示すことができるはずだ。多様で質の高い選択肢の中から、それぞれのより良い生き方を主体的に選び、圏域内の様々なコミュニティに能動的に関わりながら暮らすことができる。それこそが、関西が目指すべき「幸福生活圏」である。

【幸福生活圏・関西の実現に向けたシナリオ】

中核市や各分野の聖地の存在、歴史や自然との近さ等を含めて「多様な選択肢」と「包括的な分散型」を担保する多元構造が、関西のポテンシャルである。これらのポテンシャルを活かしていくために、「範囲」が変わる、「関係性」が変わる、「中身」が変わる中で、豊かなで多様な選択肢があり、多数の極による相互補完的な関係をつくり、コミュニティに人々が能動的に関わっていくことが大事だと申し上げたい。幸福生活圏の都心はコミュニティ同士が出会う場、郊外は多極を担う新たな郊外核、いなかは幸福の深掘りをするポテンシャルのかたまりとなるだろう。その際、場所のつながりは交通機関による圏域内外のネットワーク的なつながりが必要で、「競争から共創へ」と期待する。

パネルディスカッション

パネリスト：青木 嵩氏／瀬田 史彦氏／出口 陽一氏／
山田 裕文氏／谷 貴文氏
モデレーター：宮尾 展子氏

国土交通省 近畿地方整備局 副局長 兼

近畿圏広域地方計画推進室長 出口 陽一氏

国では今、地方創生2.0を打ち出している。東京への人口集中が加速する中、女性と若者に選ばれる地域というのが一つのキーワードだ。地方に仕事



がないと定着しない。都市vs地方という二項対立でなくそれぞれに価値があり、ネットワーク化して幸せを人材の力を最大限活かして実現することが大きな意味合いを持つ。そのために、関係人口・交流人口等を含めて地方創生2.0を本気で進めていく。

東京への人口集中について、可処分所得「中央世帯」（40～60%の世帯）の順位では東京都5位、大阪府17位。可処分所得から基礎支出を引き、さらに通勤時間をコストとして引くと残った可処分所得は東京都40位、大阪府37位。実は東京の暮らしは裕福ではない。生活費だけではない価値観はいろいろあるが、地方ではゆとりのある暮らしが可能はず。

域内総生産等から見ても関西圏のポテンシャルは依然高い。「関西広域地方計画 中間とりまとめ(素案)」では、今後の50年を見通してこの10年でするかを記載しているが、インフラ整備、都市の魅力向上、地域活性化、安全安心、GXや自然、関西圏の文化資本を活かす観光等を計画のたたき台を柱としている。

大阪市計画調整局長 山田 裕文氏

大阪のまちづくりは、2050年を目標とする「大阪のまちづくりグランドデザイン」（2020年）をベースに進めている。

人口減少幅を小さくし、交流人口・関係人口をできるだけ増やすことを念頭に、大都市の基盤を活かしながら新しい価値を創る都市として世界や国内から多様な人々に選択してもらえるまちを目指している。大阪で形成を目指す都市構造としては、「マルチハブ&ネットワーク型都市構造」とした。推進体制として、大阪府、大阪市、堺市を中心とする推進本部、市町村まちづくり連携会議、鉄道沿線まちづくり推進会議等を設置。大阪都心部では南北軸に加えて、東西軸のまちづくりも本格的に進めていく。新大阪エリアは広域交通ターミナルのまちづくり、うめきたエリアは2期まちびらきを先行して実現。東西軸では大阪城公園周辺エリアで森之宮から京橋、OBPを一体として考えていこうと3月には方針を定める予定。夢洲・咲洲エリアでは大阪・関西万博2025の跡地開発についてのマスタープランのとりまとめと来年度の開発事業者募集等も予定する。ウェルビーイングとQOLにつながるものとして、人中心の空間形成を都心の南北軸中心に進めているところだ。人中心の広場空間を整備することが多様なコミュニティ形成につながるはず。

西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部 部長 谷 貴文氏



圏域研究会では関西鉄道7社が集まり、データを持ち寄って人の移動を勉強した。我が国人口が減少しつつある中、定住人口が減少する中、鉄道会社はどうやって生きていくのか？と、鉄道7社の問題意識は共通している。定住には働く場が必要であり、郊外にできつつある新たな郊外核との今後ネットワーク化や、イノベーション等の魅力的な目的地へ魅力化する

必要がある。さらに関西圏には歴史文化資源に囲まれた生活の幸せがあり、そこをもっとアピールしたいこと等を議論してきた。重層的に多極な拠点をつないでいくためには、まちの個性を見ながらどうネットワーク化するか、移動をどうつくり出していくかが我々にとっては大事。阪神電鉄と近鉄の相互乗入の結果、阪神間と奈良の間の流動が非常に増えた。今後、2030年には南北の動きがどうなっていくかも注目されると思う。買物や楽しみを今はバーチャルでやってしまう人が若い方を中心に多いが、どう移動してもらうかを会社の枠を越えて考えていきたい。

大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻 助教 青木 嵩氏

人の移動を見てみると、郊外の固定的な概念からは随分変わり、若い世代が



集まるニュータウンもある。働き方も多様化し、所得階級に応じて住む場所が分化していることも分かってきた。地域生活圈をどう形成していくかには所得や働き方も関係してくる。住む場所は何かの要因で決まるとして、他の要素までは規定されない幸福生活圏を考えるべきではないか。「郊外の磨き方」の一つとして、各人の志向に沿った活動場所へのアクセスを担保しておく必要がある。

「郊外を郊外で語らない」と伝えてきたが、改めてニュータウンや郊外を居住者の特性や生活圈などで見つめ直すことが必要。

ニュータウンはオールドニュータウンだと言われるが、負の遺産ではなく、古くなったニュータウンを活かしながら周辺一体で考えるということをもう一度取り組む必要がある。つなぐことについては、鉄道各社が相互に乗り入れるだけでなく、一緒に駅前空間や周辺地域を磨きませんか？と申し上げたい。

山田氏：大阪府では、鉄道会社と鉄道沿線まちづくり推進会議を開催している。個別路線のまちづくり協議会も市町村を交えて設置しており、先行して取り組んでいる路線では、年度内にビジョンをとりまとめる予定。

出口氏：国土交通省としては、「地域生活圈」を各地で形成していきたい。人々が生活圈でサービスを持続的に受けられるために、どうしていくのが良いか、日常生活をどう維持していけるのかを重視。

10万人都市圏を基本にしつつ生活に必要なサービスが維持できる範囲を念頭に置いている。モデル例はたとえば香川県三豊市。多様な暮らし方が可能で、市民生活を支えるサービス群が整っている。

地域経営の観点からは3つの連携が必要。①官民パートナーシップという主体の連携、②分野の垣根を越えた事業連携、③行政区域にとらわれない地域連携。

国では地域生活圈のモデルとなるリーディング事業の申請を募集する予定であり、興味ある方には手を挙げていただきたい。

東京大学大学院工学系研究科

都市工学専攻 准教授 瀬田 史彦氏



地域生活圈のモデルとなり得る中で、実はまだ複数の自治体の事例は少ない。国は地方創生を2014年から始めているが、圏域でという発想はほぼ無く、結果として地域同士の人口の奪い合いも出てきてしまった。関西からこんな好事例があると圏域全体で提案するぐらいの意気込みで、ぜひ頑張っ

ていただきたい。

谷氏：地域で幸福感が高まっていくためには、個人が自由な発想で、特に若い世代が自発的に動いていくことが大事。我々は地域と共にある会社なので、地域の皆さんと連携しながら、やる気のある人との連携を進めて、暮らしやすい地域づくりに貢献できるようにになりたいと思う。



青木氏：瀬田先生から、関西がモデル圏域を提案せよというお話をいただき、ぜひやっていきたいと強く感じた。

各地域で既に動いている人はいる。駅前や沿線近くに住む際、心理的に強く影響しているのは駅前の豊かさで、鉄道会社と地域企業が一体的に取り組み、地域で自発

的な動きをしている人をどう汲み上げていくかが重要。そこから将来的な個性の豊かさが出てくる。

山田氏：デジタル庁の地域幸福度指標を見ていると、吹田市や豊中市と大阪市では、客観データで変わらないのに主観データになると差があり、住みやすいイメージによって評価が異なってくる。大阪市の住宅政策上、そこが大きな課題の一つ。大阪に住むイメージを上げていかなければならない。

出口氏：全国各地でまちづくりに取り組んでおられるが持続可能な地域づくりの鍵を握るのは地域づくりの主体。主体をいかに見つけ、つなぎ合わせ、継続してもらうかが大事。

瀬田先生：谷氏の発表に重層的多極連携という言葉があったが、これが鉄道会社の方から出てくるからこそ説得力がある。沼田氏からは多様性のある都市圏を目指すという点について関西圏の情報をいろいろいただいた。大都市では異なる多様な選択肢を提供する必要があり、山田氏からお話が合ったように大阪で異なるタイプの開発をしていることは非常に重要な取り組みだ。関西圏全体であれば、なおさら多様な選択肢を打ち出す必要がある。東京圏も関西圏も同じ課題がある。出口氏から紹介があったように東京都は都心に住む富裕層には快適な都市圏だが、他の人にとってはそうでもない。その意味で、大阪の発展とは、多様な人に多様な選択肢を提供してあげることではないか。大阪、あるいは関西に来れば、どんな人でもどこかで幸せをつかむことができる。そのための様々な選択肢を提供するというのが重要だ。

青木先生がおっしゃったように、郊外を都市の周りという意味で見るとではなく、うちの地域はこんな人にとって非常に幸せなまちで、その隣の地域はまた違う人にとって幸せだと、各地の特徴を生かしたまちづくりを圏域全体でしていくことが大切。

関西は一つ一つと言われてきた面をむしろ長所にして、多様なタイプの人を幸せにできる都市圏として関西を売り出すことが、日本の持続可能性にもつながり、関西の圏域づくりに非常に重要なキーになってくるだろう。関西の今後の発展をお祈りしたい。



高宮副会長より閉会挨拶

登壇者のご紹介

パネリスト
青木 嵩氏
大阪大学大学院
工学研究科
地球総合工学専攻
助教
CITÉさろん圏域研究会
アドバイザーパネリスト
瀬田 史彦氏
東京大学大学院
工学系研究科
都市工学専攻都市工学
専攻 准教授
国土審議会 計画部会・
推進部会委員
CITÉさろんWS座長パネリスト
出口 陽一氏
国土交通省 近畿地方整備局
副局長 兼 近畿圏広域
地方計画推進室長
国土交通省道路局総務課、
(独)UR都市再生機構を
経て現職。パネリスト
山田 裕文氏
大阪市計画調整局長
大阪市計画調整局計画部長、
大阪都市計画局
計画推進室長、
大阪都市計画局技監を
経て現職。パネリスト
谷 貴文氏
西日本旅客鉄道株式会社
地域まちづくり本部 部長
CITÉさろん
分科会活動委員長モデレーター
宮尾 展子
事務局／
株式会社プランニング研究所
代表取締役

圏域研究会

◆世界と対話する福井県内産業の底力を学ぶ 準圏域特別調査

日 時：2024年10月3日(木)～4日(金)
講 師：西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部(交通 整備新幹線)課長 田村 暢慶 氏
福井経編興業株式会社 代表取締役社長 高木 義秀 氏
行 程：①関西電力(株)大飯発電所視察
②北陸新幹線敦賀駅・福井駅視察
③福井経編興業(株)視察及び社長の講演

京阪神都市圏に隣接し世界につながる企業が集積する福井県 嶺北地域、新たに北陸新幹線が敦賀まで延伸され活気づく 嶺南地域を準圏域と位置付けて調査を実施しました

○原子力発電所の新規制基準をクリアし2018年に再稼働した大飯発電所を視察しました。現在は、3、4号機が稼働中ですが、1、2号機は廃炉を決定し廃炉作業を進めているとのことでした。発電所構内では、見学用のバスに乗り、福島第一原発の事故を教訓に整備した津波対策施設や非常用発電装置などを見学し、自然災害への安全対策が強化されているのを確認しました。また、途中バスを降車して、シースルー見学施設で建屋内の使用済み燃料プールなどを見学しました。

○大飯発電所から敦賀駅までのバス車内において、JR西日本の田村課長から様々な北陸新幹線の開業にまつわる話を伺った後、北陸新幹線の敦賀駅を視察しました。その話のうちの一つをご紹介します。敦賀駅ホーム端から金沢方面を望むと、トンネル入り口に向けて線路が急勾配(26%)となっているのが分かります。これは、トンネル付近にラムサール条約湿地である「中池見湿地」があり、生態系への影響が懸念されたため、当初の計画ルートから、湿地から離れる側にトンネルを水平に最大150m、標高を最大17m上げたルートに変更し地下水への影響を極力抑えたからだそうです。敦賀駅に行った際には、是非、ホーム端から新幹線では珍しい急勾配をご覧ください。

○世界につながる企業として、福井市にある福井経編興業(株)を訪問し高木社長のお話をお伺いしました。この会社は、先天的心臓疾患の子供の手術に使う「心臓修復パッチ」の開発を、大阪医科薬科大学と帝人(株)と協力し成功した、ニット生地を製造する中小企業です。NHKのプロジェクXで取り上げられ、TBSのドラマ「下町ロケット・ガウディ計画」のモデルにもなった企業です。繊維産業が衰退するなかであって、会社の存続をかけて異分野である医療分野に挑戦し、革新的な技術や発想により開発に成功したわけですが、その秘訣を「人間ネットワーク」「ニーズとシーズのマッチング」「メディア戦略」であると高木社長は語られ、私と名刺交換した際にも「この名刺がいつか役にたつかも知れないです。」と仰ってました。世界に挑む会社の意気込みと底力を感じました。

(研究活動委員会：小原)



◆はたらく場としての圏域郊外調査「らくなん進都」

日 時：2024年11月11日(月) 14:00～17:30
講 師：大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 助教 青木 嵩 氏
京都市都市計画局まち再生・創造推進室 課長 舟木 一裕 氏
生田産機工業株式会社 企画管理部長 藤井 武 氏
会 場：株式会社きんでん京都支店 会議室
行 程：座学①京都市南部界隈の人流と居住の最新動向(青木助教)
座学②らくなん進都について(京都市舟木課長)
座学③らくなん進都整備推進協議会企業/生田産機工業(株)からの話題提供
視察 らくなん進都全域とスポット調査

はたらく場としての郊外の現状と周辺との関係性を捉え、今後 郊外に住み・はたらく人たちがより幸福に生活し得る要素を探索 するため、企業の誘致が進むらくなん進都を調査しました

○「らくなん進都」とは、京都駅南部の十条通から南は宇治川までの6kmの油小路通沿道を中心とした地域で、国内外の最先端のものづくり企業をはじめとする企業の本社オフィスや生産・研究開発・流通機能の集積を図っている地域です。

○圏域研究会では、郊外に住んで都心に通勤することが中心であった京阪神都市圏の移動が、郊外と郊外、さらにその外縁部も含めた多様な圏域内の移動が活発化し変容していると考えており、また、青木先生の分析から「らくなん進都」が単に職住近接だけでなく周辺部から広く人を集めていることが分かったことから、事例として調査することとしました。

○京都市舟木課長からは、らくなん進都において、新しい京都を発信するものづくり拠点として、魅力的な都市環境を生み出し、国内外の最先端のものづくり産業をはじめとする企業の集積を図ろうとする取組みについて説明を伺いました。2023年からは「京都サウスベクトル」として、京都駅南エリアとらくなん進都鴨川以北エリアを「オフィス・ラボ誘導エリア」に指定し、容積率や高さ制限を大幅に緩和する他、補助金等の支援制度を充実させて企業の誘致に努めていることなどの説明を受けました。

○生田産機工業(株)の藤井部長からは、らくなん進都内の東高瀬川界隈で事業を営む企業が連携した「東高瀬川ビジネスコミュニティ」が、世界で活躍する中堅企業や、半導体、ライフサイエンスなどの関連企業を集積させ、その企業が共に成長することを目指した「東高瀬川ビジネスパーク構想」を実現させようとする取組みについてお話を伺いました。生田産機工業(株)は、銅と銅合金をはじめとする金属生産設備を設計・製作販売するグローバルに事業を展開されているメーカーであり、この取組みに参画されています。

○座学の後、らくなん進都のエリア全域を視察し、エリア内に京セラ本社や多くの企業が立地していることを確認しましたが、まだまだ企業が集積する余地が多く残されていると感じました。「東高瀬川ビジネスパーク構想」が起爆剤となって地域がどう発展し、また、人の動きがどのように変容するのか注目していきたいと思います。

(研究活動委員会：小原)



第1回プロジェクト見学会

日 時：2024年9月5日(木) 14:00～17:00
視察先：神戸須磨シーワールド
講 師：株式会社グランビスタ ホテル&リゾート
神戸須磨シーワールド セールス&マーケティング支配人 月村 広之 氏

パークPFI事業で民営に生まれ変わった須磨シーワールドを、 事業者であるサンケイビル関連会社のグランビスタホテル& リゾート様のご案内で、余すところなく見学しました

今年関西では多くの注目施設が開業したため、プロジェクト見学会を2回実施しました。その1つが、民営に生まれ変わった神戸須磨シーワールドです。巨大なシャチとイルカのショーを楽しめる2つの観覧スペースと、瀬戸内海の生態系を楽しみながら学べる水槽展示で構成。それらが公園の中にうまく溶け込んでおり、観光客と地元市民の両方に訴求する施設となっています。また、公園、商業、ホテルも含んだパークPFI事業として整備運営されており、エリアの雰囲気を更新することに成功しています。施設の名物はシャチのド迫力パフォーマンス。案内頂いたグランビスタホテル&リゾートの月村様より、シャチは国際保護動物で、日本で見られる施設は限られているので、是非楽しんでください、とのことでした。ホテルや公園まで案内頂き、交流会も公園内のレストランと、生まれ変わった須磨海浜公園を丸ごと体験した半日でした。

(研究活動委員会：水方)



2024年度さろんトーク

日 時：2024年12月16日(月) 16:00～17:30
講 師：国土交通省 近畿地方整備局 副局長 兼 近畿圏広域地方計画推進室長 出口 陽一 氏
会 場：株式会社竹中工務店 1階いちようホール

中間とりまとめ素案が公表された「関西広域地方計画」を 題材に、近畿地方整備局の出口陽一副局長に講演頂きました

圏域研究会のオブザーバーである近畿地方整備局の出口陽一副局長をお迎えし、「関西広域地方計画」のキーコンセプトである「KX:Kansai Transformation ～まじわり、つながる、変革する関西～に向けて」をテーマに、ご講演頂きました。関西の課題とその解決に向けての国土省の取組、また、実現に向けての自治体との連携を多岐に渡ってお話頂きました。

(研究活動委員会：水方)

第2回プロジェクト見学会

日 時：2024年12月23日(月) 14:00～17:30
視察先：グラングリーン大阪
講 師：三菱地所株式会社 関西支店 グラングリーン大阪室室長 神林 祐一 氏
オリックス不動産株式会社 投資開発事業本部 大阪営業部長 佐々木 一洋 氏

公園と融合した複合開発として国内外で評判のグラングリーン 大阪を、幹事企業で事業者の三菱地所様、オリックス不動産様 のご案内で、開業前の施設を含む貴重な見学体験ができました

もう一つの見学会は、満を持してのグラングリーン大阪です。隣接するグランフロント大阪の開業から11年、「みどりとイノベーションの融合」をテーマに実施された事業コンペから7年を経て、「うめきた」の全体像がようやく姿を現すこととなりました。今回は、24年9月に開業した北館とうめきた公園に加え、今春開業予定の南館を、CITE さろん幹事企業であり、グラングリーン大阪の開発事業者でもある三菱地所様、オリックス不動産様のご案内で見学しました。南館では西日本最大規模の床面積を持つオフィスや、公園と一体となった心地良い商業空間、都心では珍しい大型の温浴施設等、開業前の準備段階を見学。既にオープンしている北館でも、会員専用のジャムベースなど、一般客は入れない場所を見学させて頂き、とても貴重な体験となりました。交流会もみどりに囲まれたカフェを利用して頂き、改めて、公園と融合した複合開発の特別な価値を体感することができました。

(研究活動委員会：水方)



第1回トークセッション

郊外と都心の関係性を考える
～郊外都市圏域ネットワークと
大阪都心が備えたいグローバルな多様性とは？～

日 時：2024年9月13日(金) 17:00～18:30
会 場：コンファレンスプラザ大阪御堂筋 B1 ABルーム
講演①：郊外都市圏域をつなぐ大阪都心部ならではの公共空間の活かし方
講 師：大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻 准教授 吉田 長裕 氏
講演②：モバイルメディア時代におけるデジタルノマドにとっての都心の意味
講 師：関西大学社会学部 教授/日本ワーケーション協会フェロー、日本デジタルノマド協会顧問、ワーケーション&デジタルノマド・ラボCo-Founder 松下 慶太 氏

2024年度の第1回トークセッションは分科会活動委員会の「次代のまちづくり研究会」との連携企画として実施した。講師には、WS 1座長の大阪公立大学大学院工学研究科准教授の吉田長裕先生と、デジタルノマドの動向に詳しい関西大学社会学部教授の松下慶太先生にご登壇いただいた。

吉田先生からは「郊外都市圏域をつなぐ大阪都心部ならではの公共空間の活かし方」と題し、都心部における公共空間の海外活用事例について、ニューヨーク、パリ、アントワープ、ロンドンの都心部における周辺を含めた駅の再整備や歩行者や自転車を優先した道路空間の再編等の事例について豊富な写真や図版を交えて紹介いただいた。また、持続可能な都市モビリティ計画(シェアードモビリティ、モビリティハブ等)についてもご紹介があった。車線を歩行者空間化したヘルシーストリートforロンドン等の事例が印象的であった。

松下先生からは「モバイルメディア時代におけるデジタルノマドにとっての都心の意味」と題して、観光客・住民・ワーカーを兼ね備えたデジタルノマドが世界的に推計3500万人いて「海と物価とコワーキングスペース」を重視し、アジアには39%が分布すること、都市・地域では1週間～1ヶ月、国では1ヶ月～6ヶ月の滞在となることをご紹介された。今後の訪問意向先としては日本(東京)が第1位だが、大阪都心部にもデジタルノマドが集まる拠点は形成されている。デジタルノマドは比較的高収入(5万米ドル～25万米ドルで67%)で、ハイキングやヨガ等への関心が高い。デジタルノマドを都心デザインや住民のあり方が変容し新しい価値や効果を生むきっかけとして受け入れ、「混ぜる」よりも「和える」と考えることが重要だとの提案があった。

後半は、吉田先生をコーディネータに質疑応答とディスカッションを行った。

(広報委員会：文責(株)ダン計画研究所)



第2回トークセッション

郊外と都心の関係性を考える②
～鉄道移動の変化からみえてきたつながりの変化～

日 時：2024年11月21日(木) 16:30～19:00
会 場：アーバンネット御堂筋ホール ホールA+B
講演：京阪神都市圏におけるつながりの変化と幸福を考える
講 師：大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻 助教 青木 嵩 氏
関西鉄道7社：大阪市高速電気軌道株式会社 近畿日本鉄道株式会社
京阪ホールディングス株式会社 南海電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社 阪急電鉄株式会社 阪神電気鉄道株式会社

第2回トークセッションは研究活動委員会および分科会活動委員会との連携企画として実施した。

研究活動委員会担当のCITÉさろん 上田副会長から圏域研究会の趣旨説明があり、「幸福生活圏」実現に7鉄ができること」と題して鉄道7社の「競争」から「協創」により、またNATSにみられるような個性豊かな中核市の連携等を通じて「幸福生活圏」の実現を目指すことへの提案があった。

次に、圏域研究会アドバイザーの大阪大学大学院工学研究科助教の青木嵩先生から、圏域研究会で関西鉄道7社のODデータ分析を進めてきた研究成果について、先生自身の郊外研究も織り込みながら中間報告いただいた。人口減少社会において、複数の沿線のデータを見た上での新たな発見として、複数の郊外拠点が広範囲から人を集めていること、都心を通らない郊外間のトリップがあること、都心には平日以上に休日に人が集まる場所になっていること等が報告された。理想のライフスタイルが多様化し郊外が働く場にもなる中で「郊外を郊外として語らない」ことの意義や、集客拠点があり都心間を走る路線に別ベクトルの軸が入ると生活圏を支える地域が形成されやすいのでは?という考察も示された。

講演に続いて、関西鉄道7社パネルディスカッションでは、水方研究活動委員長をモデレータに、青木先生に加えてWS 1座長の吉田長裕先生(前述、大阪公立大学)および関西鉄道7社(前述)に登壇いただいた。圏域研究会からの中間報告を受けた鉄道各社からのコメントでは、1社の路線としては理解していたものの、働く場・住む場としての郊外拠点への人の新しい流れについてコメントがあった。たとえば阪神電車と近鉄との相互乗り入れにより、奈良県から武庫川女子大学への志願者が増えていることや、大阪メトロ御堂筋線が大阪の南北軸となり様々な鉄道路線が繋がっていることが確認されるなど、活発に議論が行われた。

(広報委員会：文責(株)ダン計画研究所)



第2回WS連動 次代のまちづくり研究会

立体的に都市をリ・デザインする
～「ステーションヒル枚方」開発における空間活用～

日 時：2024年11月26日(火) 15:00～17:30
会 場：京阪枚方モール・京阪ステーションヒル枚方 会議室
講師：京都大学大学院地球環境学堂 准教授 山口 敬太 氏
京阪ホールディングス株式会社
執行役員 経営企画室 まちづくり推進担当部長 大浅田 寛 氏

講演1では、WS2「立体的に都市をリ・デザインする」について、座長の京都大学大学院地球環境学堂准教授 山口敬太先生から報告いただいた。WS2では2040年代を念頭に、インフラ空間の活用とインフラの再整備、立体都市計画制度や立体道路制度活用からの立体開発の新たな制度構想、次世代モビリティ・ハブのあり方を構想し、「エキサイティングシティ・オオサカ」のさらなる展開を目指して研究中である。公共空間再編により都心部で新たなまちの顔づくりを実現した事例と空間再編パターンを解説いただいた中でも、オランダの事例について整備前と整備後を写真や図で比較しての解説が印象的であった。

講演2では、京阪ホールディングス株式会社執行役員 経営企画室まちづくり推進担当部長の大浅田寛氏より、枚方市駅周辺再開発プロジェクト「ステーションヒル枚方」の開発概要について説明いただいた。京阪本線「枚方駅」直結の再開発施設「ステーションヒル枚方」は2024年5月31日竣工され、駅を一つの核に賃貸マンションやホテル(経営者が集まる場にも)、商業施設に加えて図書館や市民窓口センター、こどもセンター等が併設されている。

講演後、大浅田氏に案内いただき施設内を見学させていただいた後、意見交換と質疑応答を行った。担当者が地域を毎日のように回って話をまとめたといった経緯が印象的であった。

(分科会活動委員会：文責(株)ダン計画研究所)



ソトから見た大阪研究会

今年度は、これまでの活動から“なんとなく良いな”と感じる活動や場所には経済性だけではない新しい価値が生まれていると仮説し、新しい価値とそれらを育む仕組みの見える化を目的に、5主体へ視察・ヒアリングを行いました。

■大阪、東京、横浜での現地視察・ヒアリングを行いました

◇茨木市「街づくり×知覚心理学」(立命館大学 茨木キャンパス)
公園や商業施設でのトリックアート掲示、錯覚展示等、学びのプロセス開放により、子供達が“いつか”イノベーションを起こす種が、キャンパス開放や共創担当の配置による場の構築では“たまたま”共創の種が生まれていました。
◇大阪市・東京都「サービスグラント」(認定NPO法人 サービスグラント)
プロボノワーカーと非営利組織を繋ぐため、進行ガイドや多様なプログラムの開発を通じ、通訳者の役割を果たされていました。CSRや人材育成を目的とした企業のプロボノ参加者からは、「社会に関われた感覚がある」「会社の肩書がなくフラットに楽しめる」といった声があったそうです。

◇東京都足立区「読む団地」(日本総合住生活株式会社)
集合住宅内に“本”を切り口にした交流拠点を設けることで、場の認知・魅力・価値を高める取組み。コミュニティマネージャーの配置がつながりや交流の促進に寄与していました。

◇横浜市「ARUNO-Yokohama Shinohara-」(株式会社ウミネコアーキ)
旧郵便局建物を改修し、シェアキッチン等で構成される文化複合拠点づくりの取組み。事業性は借り代を増やし確保し、運営は属人化せず、どんな人が入って

第3回WS連動 次代のまちづくり研究会

都市生活のWell-Beingを考える
～北加賀屋の街歩きと都市型農業を絡めた循環型社会～

日 時：2025年1月17日(金) 14:15～17:30(2部制)
会 場：【第1部】北加賀屋を街歩き【第2部】千鳥文化ホール
講師：一般社団法人グッドラック 代表理事 金田 康孝 氏
大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻教授 鍋島 美奈子 氏
東レ建設株式会社トレファム事業推進室 次長 兼 事業創成部 専門部長 内田 佐和 氏

第1部では北加賀屋駅で集合後、「みんなのうえん」を運営する(一社)グッドラック代表理事の金田康孝氏のガイドにより北加賀屋の街歩きを実施した。初めて訪れた人も多く、ユニークでどこか懐かしい街並みに魅了された。「みんなのうえん」見学後、千鳥文化に到着、各自で千鳥文化の施設を見学した。

第2部講演1では、「食と農でつながる都市のコミュニティ農園」をテーマに金田氏より講演いただいた。独自の都市型コミュニティ農園を開発から運営までトータルに実施し、民間・行政等の様々なプレイヤーと連携されている。

講演2では、WS3座長である大阪公立大学工学研究科教授 鍋島美奈子先生から「Green, Food, Energy, Water and Wasteの観点から都市生活のWell-beingを考える」についてご報告いただいた。主観的Well-beingとは何か?の解説や地域幸福度(Well-being)指標についても紹介いただいた。

加えて、講演3では、東レ建設株式会社トレファム事業推進室次長兼事業創成部専門部長 内田佐和氏より「トレファムは人をつなぐ素材です」として、川崎市コスギアイハブと京田辺市タナクロの事例について紹介いただいた。

続いて講師3名との質疑応答ではWS3の若手メンバーからの発言や質問を中心に取り上げ、盛りだくさんの研究会となった。

(分科会活動委員会：文責(株)ダン計画研究所)



も成立する場づくりを目指され、ローカライズ可能な仕組みが出来ていました。
◇鎌倉市「まちのスナック」(面白法人カヤック)
地域に関心のある人が“ママ”や“マスター”としてお店に立つ、「鎌倉を愛するみんながつくる、気軽な夜の談話室」がコンセプト。担当者の裁量で小さく始め、トライ&エラーの中で事業スキーム等を見直しながら、仕組みを練り上げていく点が印象的でした。

■SOTO研報告会、スナックソト研を実施しました

日 時：2025年2月14日(金) 15:00～17:30

会 場：MUIC Kansai

参加者：29名

今年度の視察結果を報告し、報告内容をもとに、CITÉさろん会員企業の皆様とソト研メンバーが新しい価値を育むための実践やアイデアについて意見交換を実施しました。スナックソト研では、カジュアルな雰囲気の中で、「企業として新しい価値をどう評価するか?」「どう経済性につなげるか?」について考えながら、交流を楽しみました。

(ソトから見た大阪研究会：廣瀬)



幹事研修会

日 時：2024年11月29日(金)・30日(土)
視察先：長崎県 長崎スタジアムシティ 長崎駅周辺プロジェクト

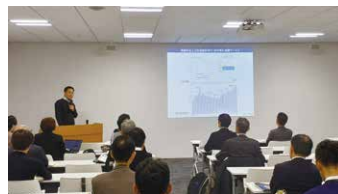
長崎市中心部の長崎駅周辺エリアでは、2022年に九州新幹線西九州ルート開通、2023年に新長崎駅ビル開業、2024年10月には長崎スタジアムシティが開業するなど、『100年に一度の変革期』として大規模なまちづくりが展開されています。

初日はJR長崎駅集合後、あのジャパネットグループが総工費およそ1,000億円をかけて開発、10月14日に開業したばかりの「長崎スタジアムシティ」に伺いました。「試合がある日だけではなく、365日いつ来ても楽しめる施設」をめざし、約7.5haの敷地にサッカースタジアムを核にアリーナ、商業施設、ホテル、オフィスが複合したプロジェクトです。現地では運営会社のリージョナルクリエイション長崎・折目執行役員に盛り沢山の見所をご案内、ご説明頂きました。ピッチと観客席がとても近いスタジアム自体の設計だけでなく、商業施設、ホテル、オフィスからもピッチが間近に感じられ、各々が魅力的な観客席になっている巧みな全体設計、また周囲に開かれたスタジアムデザインや日常的に使いやすいテナントミックスにより、平日午後の時間にも関わらず多数の来場者で賑わっていたことが印象的でした。

次にJR長崎駅ビル内の会議施設「Q-Lounge NAGASAKI」に移動、長崎市まちづくり部長崎駅周辺整備室・馬場様、長崎市景観専門監・高尾先生より、長崎駅周辺で進められているインフラ整備や大型事業の取り組み、またこれら複数のプロジェクトを景観の切り口から横断的な連携を促す「景観専門監」の役割についてご講演を頂きました。その後、新幹線駅の端部から港を望む展望スペース、デザイン調整が図られた駅舎と駅ビル、長崎らしさを感じる駅前広場の一体的な景観デザインなど、その具体的な成果について現地を案内頂き、熱のこもったご説明を頂きました。

視察終了後は長崎市様、高尾先生にもご参加頂き長崎の夜を満喫、翌日は引き続き長崎市内の視察組、ゴルフ組に分かれて更なる親睦を深めることができました。竹中工務店水方様、日本設計深田様にも多大なるご尽力を頂いて充実した研修会を開催できましたこと、遠方にも関わらず40名ものご参加を頂きましたことにお礼申し上げます。

(総務委員会：橋本)



親睦ゴルフコンペ

日 時：2024年12月21日(土)
会 場：キングスロードゴルフクラブ

2024年度の親睦ゴルフコンペは、若手を含む参加者の拡大、会員間のさらなる親睦の促進を目的として、各社ベテランと若手のペア参加を基本とする企業対抗形式でのコンペを企画、実施しました。(仮称)総務委員会ゴルフ部の精鋭幹事による周到な準備、事務局さんとも連携した粘り強い勧誘と直前までの調整対応などにより、総勢7組28名(ペア13社+個人2名)という非常に多くのご参加頂くことができました。

会場は兵庫県三木市のキングスロードゴルフクラブ。わが国のゴルフ場設計の第一人者であり、数々の名コースを手がけてきた鈴木正一氏が自ら会心の作と呼ぶ、美しく戦略性に富んだコースです。

当日は天候にも恵まれ、企業対抗戦とはいいながら、皆さん各組ごとに和気藹々とうらやみながらラウンドされておられました。そして終了後の表彰式、栄えある第1回企業対抗戦の優勝は奥村組ペア(佐々木様、

蛸原様)! 幹事団代表の積水ハウス泉様の名司会で大いに盛り上がり、本企画の目的であった親睦促進に大いに貢献できたことと思います。総務委員会幹事団の皆さま、ご参加頂きました会員の皆さまにお礼申し上げます。

(総務委員会：橋本)



国内視察研修会

日 時：2025年3月7日(金)
視察先：徳島県名西郡神山町 神山つなぐ公社、神山まるごと高等専門学校

2024年度国内視察研修会では、徳島県神山町を訪問しました。同町は「創造的過疎」をキーワードに様々な活性化策を実施してきた「地方創生の聖地」と称されています。

貸切バスで現地到着後、一般社団法人神山まちづくり公社を訪問。代表理事の馬場様より、同町の約20年に亘るまちづくりの取り組みについてご説明を頂きました。特に印象的だったのは、2015年に始まる「まちを将来世代につなぐプロジェクト」。“実現するための計画”をモットーに同町の創生戦略として策定され、この計画から官民による実行部隊としての「神山まちづくり公社」、地産地消をビジネスとして推進する「フードハブ・プロジェクト」などの新たな仕組みが生まれたとのこと。計画を計画で終わらせない、その理念や官民連携のあり方について、多くの学びを得ることができました。

午後は2023年4月に開校した「神山まるごと高専」を訪問。「モノをつくる力で、コトを起こす」をコンセプトに、起業家が本当に欲しいと思う学校として構想、設立された高等専門学校です。単一学科、1学年40名程度、全寮制、国内で唯一、企業版ふるさと納税を活用して設立されたという特徴を持ち、サテライトオフィスとして神山町に進出していたSansan社の寺田社長が理事長を務めています。当日は同校でパートナー連携／学生応援をご担当されている蔵本様より、レクチャーと校舎のご案内を頂きました。全国から集まる志の高い学生さん達のパワーとともに、「スタッフ」と称する先生方が新しい教育、人材育成に真摯に取り組む情熱に触れ、心を動かされる思いでした。

その後、認定NPOグリーンバレー社の後藤様より、旧街道の街並みにIT企業のサテライトオフィスやアートギャラリーが点在する寄井商店街、フードハブ・プロジェクトが運営する「かまバン&ストア」など

をご案内頂いた後、徳島市内で懇親会、貸切バスで一路大阪へと、丸一日を掛けて大変充実した研修会となりました。ご参加頂いた皆さま、特に今回の研修会の実現に多大なるご尽力を頂きましたコクヨ蔭山さんに、この場を借りて御礼申し上げます。

(総務委員会：橋本)



新入会企業のご紹介

「人に、街に、明るい未来を」
安心で快適なまちの基盤づくりを通じて、
持続可能な未来の実現を目指す

関電不動産開発株式会社

今年度(2024年10月)から新規入会させて頂きました「関電不動産開発」です。

弊社は、65年超の歴史の中で不動産・関連サービスの提供を通じ、お客さまに寄り添い、共に歩んでまいりました。シエリアブランドの分譲住宅事業・オフィスビル・商業施設・物流施設・賃貸住宅等多様な不動産の取得・開発・運営を手掛けるとともに、大規模区画整理・再開発事業等への事業領域の拡大も行っています。また、事業エリアも関西を中心に、首都圏をはじめ国内の中核都市へと広げると同時に、海外事業にも積極的に参画しています。

事業活動においては、関西電力グループのデベロッパーとして、グループの総力を結集し、オール電化物件の供給やCO₂フリー電気の導入等で脱炭素社会の実現に貢献し、関西電力グループ「ゼロカーボンビジョン2025」に基づく持続可能な未来が実現できるよう新しい価値の創造に挑戦し続けています。

CITÉさろんでは、会員各社の皆さまとの様々な活動や交流を通じて、大阪の豊かで魅力あるまちづくりに貢献して参りたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。



シエリアタワー中之島イメージ

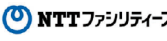
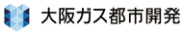
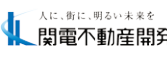
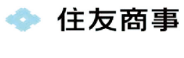
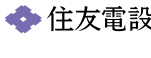
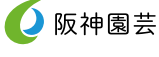
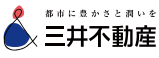
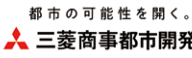


星田駅北土地区画整理事業イメージ



住宅事業本部
用地開発部 部長
開発マネジメント部
部長
野中 博之氏

Member's List 会員リスト 計55社 (50音順)

 株式会社IAO竹田設計	 JR西日本不動産開発株式会社	 株式会社KANSOテクノス	 NTTコミュニケーションズ株式会社	 NTT都市開発株式会社	 株式会社NTTファミリティーズ	 株式会社アーキエムズ
 浅井謙建築研究所株式会社	 大阪ガス株式会社	 大阪ガス都市開発株式会社	 大阪市高速電気軌道株式会社	 大阪地下街株式会社	 株式会社大林組	 株式会社奥村組
 オリックス不動産株式会社	 鹿島建設株式会社	 カナデビア株式会社	 関西電力株式会社	 株式会社関西電工	 関西不動産開発株式会社	 近鉄不動産株式会社
 株式会社きんでん	 株式会社クボタ	 京阪ホールディングス株式会社	 株式会社鴻池組	 コクヨ株式会社	 株式会社ザイマックス関西	 サントリーコーポレートビジネス株式会社
 三和電気土木工事株式会社	 清水建設株式会社	 住友商事株式会社	 住友電設株式会社	 積水ハウス株式会社	 ダイキン工業株式会社	 大成建設株式会社
 株式会社竹中工務店	 中央復建コンサルタンツ株式会社	 東京建物株式会社	 飛鳥建設株式会社	 南海電気鉄道株式会社	 西日本電信電話株式会社	 JR西日本西日本旅客鉄道株式会社
 株式会社日建設計	 株式会社日本設計	 パナソニック株式会社	 阪急電鉄株式会社	 阪急阪神不動産株式会社	 阪神園芸株式会社	 阪神電気鉄道株式会社
 富士通株式会社	 三井不動産株式会社	 三菱地所株式会社	 株式会社三菱地所設計	 三菱商事都市開発株式会社	 ユアサM&B株式会社	

Event Calender 2024-2025年度CITEさろん イベント・カレンダー

◇2024年度の事業日程					
9/ 5	木	14:00 ◆第1回 プロジェクト見学会	研究活動	神戸須磨シーワールド	
9/10	火	15:00 ◆WS2 (第1回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室	
9/13	金	17:00 ◆第1回トークセッション	広報・分科会	コンファレンスプラザ大阪御堂筋	
9/27	金	15:00 ◆WS1 (第1回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室	
9/30	月	15:00 ◆WS3 (第1回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室	
10/ 3	木	◆園域研究会 準園域特別調査	研究活動	福井県敦賀、大阪原発、北陸新幹線敦賀駅・福井駅、福井経緯興業(株)	
10/17	木	13:30 ◆総務委員会	総務	CITEさろん事務局	
10/24	木	16:00 ◆10月定例幹事会	総務	梅田スカイビル タワーイースト36階 スカイルーム1	
11/ 5	火	15:00 ◆WS2 (第2回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室	
11/11	月	14:00 ◆園域研究会 はたらく場としての園域郊外調査「らくなん進都」	研究活動	(株)きんでん京都支店 会議室	
11/12	火	15:00 ◆WS3 (第2回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室	
11/18	月	15:00 ◆広報委員会	広報	CITEさろん事務局	
11/21	木	16:30 ◆第2回トークセッション	広報・研究活動・分科会	アーバンネット御堂筋ホール3階 ホールA+B	
11/22	金	15:00 ◆WS1 (第2回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室	
11/25	月	16:00 ◆総務委員会	総務	オンライン開催	
11/26	火	15:00 ◆第2回 WS運動 次代のまちづくり研究会	分科会	京阪枚方モール・京阪ステーションビル枚方	
11/29 ~ 30	金土	◆幹事研修会	総務	長崎県 長崎スタジアムシティ、長崎駅周辺プロジェクト	
12/ 3	火	16:00 ◆研究活動委員会	研究活動	CITEさろん事務局	
12/ 9	月	16:00 ◆総務委員会	総務	オンライン開催	
12/16	月	15:00 ◆12月定例幹事会	総務	(株)竹中工務店 1階いちようホール	
12/21	土	16:00 ◆さろんトーク	研究活動	キングスロードゴルフクラブ	
12/23	月	14:00 ◆第2回 プロジェクト見学会	研究活動	グラングリーン大阪	
2025年					
1/17	金	14:15 ◆第3回 WS運動 次代のまちづくり研究会	分科会	北加賀屋 みんなのうえん、千鳥文化ホール	
1/21	火	15:00 ◆WS3 (第3回)	分科会	大阪市開発公社 SEMBA10プレース	
1/28	火	15:00 ◆WS2 (第3回)	分科会	大阪市開発公社 SEMBA10プレース	
1/31	金	15:30 ◆総務委員会	総務	CITEさろん事務局	
2/ 5	水	15:00 ◆第18回 CITEまちづくりシンポジウム	広報・研究活動・分科会	ホテル阪急インターナショナル4階「紫苑」	
2/ 7	金	15:00 ◆WS1 (第3回)	分科会	大阪市開発公社 SEMBA10プレース	
2/14	金	◆ソトから見た大阪研究会 SOTO会	分科会	Muic 淀屋橋	
2/18	火	15:00 ◆総務委員会	総務	CITEさろん事務局	
2/19	水	14:30 ◆分科会活動委員会 16:00 ◆研究活動委員会	分科会 研究活動	オンライン開催 CITEさろん事務局	
2/28	金	15:30 ◆2月定例幹事会	総務	北浜フォーラム	
3/ 7	金	◆国内視察研修会	総務	徳島県名西郡神山町 神山つなぐ公社、神山まるごと高等専門学校	
◇2025年度予定					
4/17	木	16:00 ◆定例幹事会	総務	(株)大林組 講堂	

■編集後記

酷暑であった昨夏とは逆に日本海沿岸地域が記録的な大雪となる厳冬の1・2月となりました。ここ数年は四季というより二季のような季節に感じます。今夏も酷暑に近いという長期予報ですが、CITEさろんは視察・まちあるき、ゴルフ大会等の野外事業が基本のため、今後は季節・気候も一層考慮した事業開催となっていくのでしょうか？

さて、今年も各委員会事業は活発で成果も大ですが、特に園域研究会は4年間のとりまとめとなり、CITEさろんだから可能となった7鉄道事業者WSの開催、7鉄道事業者が一堂に会するパネルディスカッションの成果等から、園域や郊外にはまだ多くの課題があると判り、今後もCITEさろんによる新たな展開が期待されるところです。

(事務局)

シテ・レトル

2025年 3月号 Vol.91

発行／CITEさろん事務局
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5
船場センタービル5号館2階
一般財団法人 都市技術センター 内
企画／CITEさろん広報委員会
編集／株式会社高速オフセット